

# 週報

令和 5 年 8 月 18 日  
2023~2024年度 No. 6

2023-24年度 国際ロータリーのテーマ

Rotary



世界に希望を生み出そう

国際ロータリー会長 ゴードンR.マッキナリー

## プログラム

S A A 藤川 博士君

☆点 鐘

☆ロータリーソング斉唱

「我らの生業」

☆四つのテスト斉唱

☆食事懇談

☆会長の時間

☆幹事報告

☆委員会報告

①親睦委員会

・スマイルボックス報告

☆部内卓話

「会員増強・拡大月間卓話」

戸田 博之君

☆点 鐘

現在会員					28名		前々回の欠席者(7/28)						6名	
本 日	出席	18名	欠席	5名	免除(a)欠席	3名	免除(b)欠席	2名	出席率				78.26%	
	出席	15名	MU	0名	免除(a)MU	3名	免除(b)MU	3名	修正出席率				72.73%	
月別出席率%	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6		
	本年度 前年度	82.97	81.16	84.53	81.69	91.84	91.44	90.16	93.48	96.87	83.80	85.93	89.39	

例会場 カンパーナホテル TEL(0959)72-8111  
例 会 金曜日(12時30分~13時30分)  
事 務 所 長崎県五島市末広町8-4  
福江商工会議所内 TEL(0959)72-3108

会 長 平 村 和 弘  
副 会 長 山 里 一 郎  
幹 事 松 岡 孝 博  
雑誌:会報委員長 寺 澤 信 義

## 会長の時間

会長 平村 和弘君

それでは会長の時間を始めさせていただきます。

今回は車のブレーキについて簡単に説明したいと思います。車両のブレーキの種類はフットブレーキ、パーキングブレーキ（サイドブレーキ）、エンジンブレーキの3つがあります。

フットブレーキは一般的にブレーキと言われていて、車を減速するときや止めるときに利用されます。ブレーキペダルを足で踏み込んで使用するので、このように呼ばれています。フットブレーキには大きく2種類の機構があります。

1つ目はディスクブレーキ。現在のクルマの主流となっているブレーキで、元々は航空機に使われていましたが、後にレーシングカーに使われるようになり、その後乗用車へ採用されました。ドライバーがブレーキペダルを踏むと、シリンダー内のピストンが油圧によって押し出され、ブレーキパッドがディスクローター（ブレーキディスク）を挟み込んで速度を落とします。ディスクブレーキは外部に露出しているため、熱が大気に放出されやすいことや、水に濡れても回転による遠心力で吹き飛ばすことができるという利点があります。

2つ目はドラムブレーキ。ドライバーがブレーキペダルを踏むと、シリンダー内のピストンが油圧によって押し出され、ブレーキシューがドラムに押し付けられることで速度を落とします。摩擦熱が外部に放出されにくい構造で、加熱によって制動力が急激に低下するフェード現象が起こりやすいという欠点があります。しかし、ディスクブレーキに比べ構造が簡素で安価ということで、コンパクトカーや軽自動車のリアブレーキに多く採用されています。

パーキングブレーキは、駐車の際に車が動き出すのを防ぐためのブレーキです。以前はサイドブレーキやハンドブレーキと呼ばれていましたが、近年は足元のペダル式や押ボタン式などもあり、パーキングブレーキと呼ばれています。レバーを引く（ペダルを踏む）とロッドが引っ張られ、その力でディスクローターやブレーキドラムにブレーキパッド等を押付けます。前後輪のどちらか2輪（殆どが後輪）を使用するのが一般的です。フットブレーキに比べ摩擦力が強くありませんので減速等には向いていませんが、フットブレーキにトラブルがあった場合のバックアップの役割があります。

次にエンジンブレーキです。エンジンブレーキとは、エンジンの抵抗を利用したブレーキのことです。ギアを入れてアクセルを踏めば車は加速します。一方、アクセルを戻すとブレーキを踏まなくても徐々に減速します。この減速のことをエンジンブレーキといいます。走行中、意図的にアクセルを閉じることでエンジンブレーキを「かける」ことが可能です。また、ギアをシフトダウンすると、エンジンブレーキが強くなります。フットブレーキを利用する前に車の速度を落とすことで、フットブレーキを補助するのが主な役割です。エンジンブレーキで減速すれば、フットブレーキの使用も短時間になり、フットブレーキの消耗を軽減できます。

簡単に車のブレーキについて説明いたしました。車が止まるためになくってはならない物です。フットブレーキを使用するとブレーキパッドやブレーキシューは摩耗していきます。定期点検等でしっかりとチェックしていただき、安全なカーライフを送っていただければと思います。

以上で会長の時間を終わります。

## 幹事報告

幹事 松岡 孝博君

### 【当クラブ関係】

- 本日例会終了後、第2回理事会をこの例会会場で開催しますので、理事役員の方は出席をお願いします。

### 【地区関係】

- 長崎みなとロータリークラブより、例会変更のお知らせが届いています。
- 長崎北東ロータリークラブより、休会のお知らせが届いています。
- 長崎南ロータリークラブより、休会のお知らせが届いています。

### 【その他】

- 次週8月25日（金）には、予定していた「第73回社会を明るくする運動下五島中学・高校弁論大会」の優勝者の久賀中学校3年の越山福太郎君に、弁論の発表をお願いしています。

後程、青少年奉仕委員会の柳田さんより連絡があると思います。

以上で幹事報告を終わります。

## 委員会報告

### 出席報告

- ◆ 8月18日（免除(a)欠席者）  
中村 博義君 植松 郁雄君 中村 吉廣君
- ◆ 8月18日（免除(b)欠席者）  
谷川 和啓君 佐々野邦久君
- ◆ 8月18日欠席者  
坂井 成光君 小畑 和男君 山下 克己君  
有川 真史君 才津 喜彦君

## 親睦委員会

### スマイル報告

- ◇ 戸田 博之君 本日の卓話、ご清聴宜しくお願  
いします。
  - ◇ 吉田 泰之君 8月定例スマイル会ゴルフコン  
ペ優勝いたしました。
  - 戸田博之さん、本日の部内卓話宜しくお願  
いします。
  - 中村博義さん、才津喜彦さん、お誕生日おめで  
とうございます。
  - 吉田泰之君、スマイル会優勝おめでとうござい  
ます。
- 平村 和弘君 山里 一郎君 松岡 孝博君  
清瀧 誠司君 中村 栄治君 張本 民雄君  
山下 実君 柳田 靖夫君 片山 雅文君  
神之浦文彦君 西上裕一郎君 橋本 武敏君  
三村 剛孝君 寺澤 信義君 藤川 博士君  
山口 裕之君

合計 19,000円  
通算合計 126,000円

## 部内卓話

### 「会員増強・拡大月間卓話」

戸田 博之君



皆様こんにちは。

先日、橋本プログラム委員長より、8月は会員増強・拡大月間ですので卓話をお願いしますと言われたので、何も考えずに「了解しました。」と答えたのですが、いざ原稿を書こうと思ったら、なかなか書きたい事が思いつかず苦慮しました。

そもそも会員増強というのは、結果的に会員を増やせば良いので答えは簡単ですが、その前提は大変厳しくて簡単にはいきません。しかし、何かを書いていかないと前に進まないの、何とか考えてみます。

まずは、全会員の協力が絶対に必要です。各会員の五島市内の方の人物の情報をお待ちしています。入会するとか、人物がどうかという事よりも、最初にその人の存在を知りたいと思います。雑な言い方で申し訳ありませんが、まず一步は人物の存在情報を何の前提もなく知った上で、その人物の情報収集に入りたいと思います。まず一步がないと、なかなか前に進まないと思っています。一つの思い付きですが、近いうちにメールボックスに会員にどうかと思う人の名前を書ける書類を入れておきますから、心当たりのある方がいたら記入をお願い致します。入会前とかはかなり神経質になる所がありますので、秘密保持は守りますし、慎重にやりたいと思います。

さらには、多くの地元の人達と接触する機会の多い転勤者の皆様にも推薦をお願いしたいと思います。新しい所に来て、逆に人物像をあまり知らないかもしれませんが、まず第一歩と考えてよろしくお願ひしたいと思います。

私も福江ロータリークラブに入会して25年を越えましたが、世界的に有名なクラブではあるのですが、余りプレッシャーを感じた事はありません。ある意味、気楽な気持ちで入会して頂きたいと思

います。又、仮に入会しても気に入らなければ、いつでも退会をされても良いと考えてます。おもしろくできない在席メンバーの責任かもしれませんし、さらには義理立てとかして無理に在席する事はないと思います。これについては、私も含めた全会員に福江ロータリークラブのおもしろさを出す努力が必要かと思えます。3年半前からのコロナは大変世界中を驚かせましたし、今もまだ続いています。このような時代に親睦だどうだと盛り上げるのは難しい気がしますが、何とか全てにおいて乗り切らないと、会の存続自体も難しくなるかもしれません。どうぞ、楽しい例会になる事を全会員で盛り上げていただきたいと思えます。そして、私がいつも気にしているのは、退会者を出さないようにする事だと思っています。諸般の事情もいろいろあるでしょうが、その点についてもよろしく願います。

さて、会員増強の話はすぐに終わりますので、時間まで何か話そうと思えます。(よろしいでしょうか?)

私は時々卓話をします。そして豆知識など話してましたが、スマホのおかげでほとんど話す事はなくなりました。もし、わからない事や興味がある事があれば、全てにおいてスマホが教えてくれます。したがって、あえて話す事などなくなってしまいました。しかし、ここで一つだけ話したい事があります。ヒュー・エヴェレットの「多世界解釈」です。なぜこれかと言うと、実は私も小学生の頃「この世は何通りもあって、たまたま私はこの世界にいるのではないのかな?」と思って考えた事がありました。結果的には、この一つの歴史しか知らないで人生を終わるのだらうと思ひ、もしかしたら別の世界の歴史にいたかもしれないと思って考えた事がありました。すると50歳ぐらいの時に「多世界解釈」を目にして「あ〜、私と同じ事を考える人がいたんだな」と少しびっくりしました。全然現実的ではないし、絶対あり得ない事なのでしょうが、もし私が別の世界の歴史の一員であれば、当然違った人生を歩いていたと思ひます。別に今の人生が嫌いという訳でもないし、別の人間に生まれ変わりたいと思ひませんが、もしかしたら、たまたまこの一本の世界を歩いていて、別の世界だとどんな人生があったのかなとか妄想にふける時がありました。そして今、この時を別に神経質に思うわけではありませんが、少しずつ時間の経過を気にする事があります。強い体力と精神力があるわけではないので、一瞬一瞬をかみしめて生きてはいますが、時々「あ〜一

日は早いなあ。一週間は早いなあ。あ〜という間に一年たった。」と感じる事があります。私の自論の中に「時間が経つのが早く感じる時は幸せな時なんだなあ」というのがあります。そうしているうちに、残りの人生もカウントダウンしていくのでしょうかと思ひ、さみしい気持ちと幸せな時間とを過ごせる楽しさを両方感じながら日々を送っています。さて、私も後20年ぐらいかもしれませんが、この一つの人生の歴史を全うして、この世を終わらせたいと思ひます。あわよくば、また別の世界で生きてみたいと思ひるのは欲張りでしょうが、人それぞれであって、皆様も暇な時には考えてみるのも楽しいのではないのでしょうか?ちなみに私は思想家ではありませんし、〇〇教とかではありませんから、その点は誤解がないようお願い致します。ちなみに、もし別の世界を見る事ができるならば、競馬で世界一の金持ちになっている事は間違いないでしょうね。

さて、私の話はほとんどネガティブな話が多いので、少し気分を変えて楽しい実話を話したいと思ひます。

一つ目は、30数年前にAさんが大学卒業と同時に、東京のアパートに住んでいた時の荷物を整理して実家の五島に宅急便で送る事になり、実家のおばさんに電話した時の会話を、

Aさん「オバ、荷物を送ったけん、ツキ(着)払いにしとったけんネ。」

おばさん「あ〜わかった。じゃあ月賦で払えばよかネ」

と宅急便が盛んでなかった時代、こういう事もありました。

二つ目もAさん。5〜6年前にめったに東京とか行かないAさんは、息子と甥を連れて品川プリンスホテルのフロントの椅子に座ってフロントマンと対応していました。その時の会話を、

フロントマン「住所、お名前、電話番号を記入ください。」

Aさん「あ〜わかったよな」

フロントマン「料金プランはこの通りで、館内の設備はこのようになっています。」

Aさん「あ〜わかったよな。」

フロントマン「お客様、Wi-Fiはお使いになりますか?」

Aさん「何かなそら、中華料理かな?」

と言ったそうです。後ろにいた息子と甥は、スーッと距離をとって他人ずらしたそうです。

三つ目は、ごく最近の私の話。先月、母が腕時計と女性用のカツラをほぼ同時期に失くしたと大

騒ぎになりました。特に腕時計には執着して、かかりつけの病院、いつも乗るタクシー会社、行きつけのお店、美容室等々あらゆる所に電話をして探させたりして、かなり迷惑をかけました。ついには「あんたにやらなかったかね」と、私に対しても矛先が向きました。しかし、やはり時計は見つかりませんでした。それから1ヵ月半過ぎて、私が自分の時計の電池切れで時計屋さんに行くと妻に言ったら、私も3つぐらい時計屋さんに行きたいと言って自分の時計を整理していたら、少しみすぼらしい箱を持って来て、それを開けたら何と母が探していた時計で、私が自宅に持ち帰っていた事を思い出しました。「あ～やっちゃったなあ」と思い、母にどのように説明するか考えて、まあ、あれからずいぶん時間が経っているので、慌てて持って行かなくても昼飯時にでも持って行くかと思い、すぐには持って行かないで渡しました。その時の会話を、

私「かーちゃんすまん、時計はうちにあったよ。」  
母「アー、あんたが犯人やったとか、そう思ってたんよ。ずいぶん探したとぞ、もう。」  
そして、私の頭をじっと見て  
母「じゃ、カツラもあんたじゃなかとネ。」